

講義科目名称： 個人・家族・集団・組織の援助論Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Theories of Assistance in
Individuals, Families, Groups and Organizations II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
豊島 泰子、中村 晶子、兼田 啓子、中島 千英子			
火4、5			
添付ファイル			

科目の概要	この授業では、地域における対象（個人・家族・集団・組織）を捉える方法である地域診断について理解する。地域診断の方法（情報収集、アセスメント、計画、実施、評価）のプロセスについて理解する。大学の所在地の地域について、地区視診や既存の統計資料や社会資源などの情報収集、分析を行い、地域の特性について理解する。		
授業の内容	第1～2回	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） ・地域診断（第1章） ・地域診断の概念、地域診断の過程	シラバスを事前に読んでおく
	第3～4回	地域診断の特性の把握（地域診断の実際） ・地域診断の条件、地区の概要の把握、地区視診、地域を歩いて知る	
	第5～8回	地域診断の特性の把握（地域診断の実際） ・箕面市の情報収集、アセスメント（演習）	
	第9～15回	地区視診 ・箕面市の地区視診（演習） ・資料まとめ ・発表	
	第16～18回	地域診断の実際のみ ・地域診断のみ、健康課題、健康づくり	
	第19～20回	事業計画と保健師の役割 ・活動目標・事業計画の策定	
	第21～22回	保健福祉計画の策定と予算（第3章） ・地方公共団体における保健医療福祉対策、予算の仕組み	
	第23～24回	保健福祉計画の策定と予算（第3章） ・地方公共団体における保健医療福祉対策、予算の仕組み	
	第25～26回	箕面市の保健医療福祉データをまとめてみよう ・課題から保健計画を立案してみよう（演習）	
	第27～28回	箕面市の保健医療福祉データをまとめてみよう（演習）	
	第29～30回	発表・まとめ 定期試験	
学習到達目標	①地域における対象（個人・家族・集団・組織）を捉える方法である地域診断について理解できるようになる。 ②地域診断の方法（情報収集、アセスメント、計画、実施、評価）のプロセスについて理解できるようになる。 ③一地域の地域診断を通して、地域の特性について理解できるようになる。		
授業の方法	・講義・演習		
成績評価の方法	・定期試験 50%、 成果物 40%、授業参加度 10%、		
教科書・テキスト	・平野かよ子編集：「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論」 公衆衛生看護管理論で使用した教科書 ・豊島泰子編集：「看護師のための地域看護学」 ビラールプレス社		
参考書	・上野昌江、和泉京子編集(2016) 公衆衛生看護学第2版 中央法規出版 ・標美奈子著(2020) 標準保健師講座・1 公衆衛生看護学概論 ・荒賀直子、後閑谷子著(2020) 公衆衛生看護学 j p 第5版 インターメディカル		
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	・教科書を中心として講義を進めます。専門的なことを学ぶため、事前・事後学習で知識を確かなものにする。		
履修上の留意事項	・地域を診断する能力は、臨地実習でも使用する保健師としての大切な能力の1つです。積極的に取り組んでください。		
オフィスアワー	・火曜日 12:30～14:20		
課題に対するフィードバックの方法	・その都度講義時に返却する。		

実務経験	・いずれも保健師
その他	